



## ミュンヘン便り ～ Artikel über Artikel 1 (冠詞についての記事1) ～

特許の仕事は、言語とは切っても切れない関係ですね。母国語を操るのも難しいのに、外国語ともなると、もはやお手上げ。ドイツ語の関所の一つに、冠詞 (Artikel) があります。ドイツ語を学んだ方はご存知でしょう。英語ならば冠詞、その中でも定冠詞は the だけでまだいい方です。ドイツ語には、男性名詞、女性名詞、中性名詞があり、それによって定冠詞が変わります。複数形はまた別の定冠詞を持ちます。下の絵で、女性の列は女性名詞を、男性の列は男性名詞を、中央の列は中性名詞を、それぞれ示しています。同じ乳製品でも、バターや牛乳は女性、チーズは男性、アイスクリームは中性です。同じ飲み物でも、牛乳は女性、ビールは中性、ワインは男性。ここに論理的理由はありません。ひたすら覚えるのみ。

先日、ドイツ人の友人二人、ハンガリー人の友人 HE と 4 人で食事をしながら、ドイツ語の話になりました。ハンガリーの友人 HE は、ドイツに来て 21 年。黙っていたらドイツ人と間違われるほど流ちょうなドイツ語を話します。それほどドイツ語に堪能なのに、計算はハンガリー語でないとできないのだとか。私もドイツ語での数字の表現はいまだに混乱します。日本語であれば 93 を「九十三」と読みますが、ドイツ語では「三と九十」と読みます。193 であれば、日本語では「百九十三」となるところ、ドイツ語では「百、三と九十」と読みます。左から順に読み上げても、二ケタ目に来たら、飛ばして一ケタ目を先に読み、最後に二ケタ目に戻っ

てフィニッシュするのです。その読み方でなぜ暗算ができるのかと感心します。

友人 HE 曰く、ハンガリー語には冠詞がないのだとか。さらに、主語と目的語を言わなくてもいい、なぜならばそれらは動詞に含まれるから、というのです。彼女曰く、「ドイツ語は面倒くさい、何故なら一々冠詞を名詞の性によって変えねばならず、名詞の位置によって冠詞が変化する・・・」。うんうん、全く同感です。

「さらに」と彼女は続けます。「名詞の性には理由がない。覚えるしかない。」うんうん、その通り。「なんでバター die Butter (デア ブター) は女性なのよ?」。die は女性名詞、der は男性名詞の冠詞です。ドイツ人の DM がいます。「僕の友達の XX は、バターを男性扱いするよ。彼の地域ではそうらしい。彼は der Butter (デア ブター) っていう。。。き・き・き・気持ち悪いっ」。友人 DM は、自分の口で「der Butter (デア ブター)」と言った瞬間、身体をかきむしって気持ち悪がりました。面白いですね。この感覚が外国人にはありません。バターが男であろうが女であろうが大したことではなく、どっちでもいいのだから名詞の性など取っ払ってしまえばいいという結論に到達しがちです。

「しかも」と友人 HE はまだ続けます。「なんでチーズ (Käse、ケーゼ) は男性なの? 最後が e で終わるんだから、女性であるべきじゃない。」つまり der Käse (デア ケーゼ)



が、なぜdie Käse（ディ ケーゼ）ではないのか、と言っています。彼女も言っているように、最後がeで終わる名詞の多くは女性名詞で、ドイツ語学校でもそのように教えます。例えば、die Rose（ローゼ、薔薇）、die Nase（ナーゼ、鼻）、die Brille（ブリレ、眼鏡）などは、すべて女性名詞です。

で、先のハンガリー人HEの問い「なんでチーズ（Käse、ケーゼ）は男性なの？」に対し、ドイツ人DMは即答しました。「臭いからだよ！」

### 筆者紹介

稲積 朋子（いなづみ ともこ）

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe（GIPグループミュンヘンオフィス）設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。趣味は、山登り、ほっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。